

🌿ハーバリウム体験方針🌿

ハーバリウムは難しくありません。ですが、確実に作ってもらうために1本目は基本形で誘導していきます。2本目以降ご自由に作ってくださいね。ちよの方針は「**楽に、キレイに、楽しもう**」です。

注意点>*お花は浮きます。枝を使って押さえます。
*お花の入れる量は5割位です。隙間がある位に。
*お花の色は完成時は1.5倍くらいに濃くなります。
*丸いボトルを中心にお花は拡大されて見えます。



★ここのお花は自家製でドライ加工しております。よって色や形が1輪、1輪違います。季節によって取れる花も違いますのでいつも同じ花があるわけではありませんが、季節のお花を組合わせて楽しんでください。

ハーバリウム 料金表

★初めの1本は確実にできるように基本型（花、枝、花、枝の順に）誘導していきます。2本目からは自由に作るのも可能。

プラン	価格（税込）	時間	内容
ハーバリウム 1本体験	3,500 円	80 分	ボトル 200 cc以下 1 本制作。 *基本花材で確実に制作。
ハーバリウム 2本体験	4,500 円	120 分	ボトル 200 cc以下 1 本、100 cc 1 本のセット。 小さいボトルで基本をマスターして から大きい方で自由制作を。
★キャップ・リボンが選べます。 ★プレミアム花材を使われる方は+500 円になります。			
【本格体験】 +削る。加工付き 1 本体験	5,400 円	120 分	基本の 1 本体験+リューターで 文字を削ったり加工ができます。 オリジナル感が出せます。
【本格体験】 ハーバリウム 作り放題	10,800 円	150 分	5～10 本位できます。必ず 1 人 で作ってください。一定の完成 度を保つよう制作・指導します
プロ養成 1 日講座	21,600 円	6 時間	①ハーバリウム実践②知識

***追加される方は小ボトル 100 ccに付き 1000 円です。**

★ハーバリウムはお子様でも簡単できれいに出来ます。上手くいかなかったら直しますのでお気軽にお声を掛けてくださいね。

【見学・付き添い】 ちよのでは授業料 2000 円+材料費で体験を行っております。見学者も授業料部分の 2000 円/1 回かかります。観光地ではなく通常教室ですのでご理解ください。

【ハーバリウム作り方】

初めにメイン花材を1本とボトルを決めて頂き、スタートします

次に下から順に作ります。花材は砂、あじさい、ポプリ、実です。

その後、枝・麻を入れメイン、サブメイン花材を入れていきます。

お花は浮きやすいので、麻やカスミソウなどの枝物で上手く止めるのがコツです。

10 グラデーション程に花材が見えますと高級感も出て綺麗です。

【ハーバリウムのコツ】

Step1. 印象を決める

【例】春っぽい、明るい、華やか、涼し気、爽やかに・・・

- ①色相でまとめる。赤・黄色・青等の同系色でまとめる
- ②色相で変化させる。反対色を使う。
- ③色調でまとめる。同じ彩度で色を変える。
- ④色調で変化させる。彩度、明度を変える。
- ⑤アンダートーンの統一
- ⑥無彩色を使う

Step2. 技法を決める

- ①1 輪挿し技法 枝を生かす
- ②3 種花材の繰り返し
- ③同一花材技法 アジサイと枝物 スッキリして色が映える

Step3. 花の分量

【例】花材は全体の60%入れるのが屈折上、望ましい。

- ①1 色で統一感を出す。明度で変化を出す。
- ②3 分割 3 : 3 : 3
- ③8 (メイン色) : 2 (差し色)
- ④ポイント 1 (メイン色) : 9

【テクニック】

1. 面積 8 (メイン色) : 2 (差し色)

花材は全体の60%入れる。花を浮かせないように。

2. リズム・繰り返し

あじさい、貝細工、カスミソウ等3種類位を3セット繰り返して1つのボトルに入れる。これは一見平凡なものの印象を強められる技法

3. バランス 。 下濃い目の色調上薄目の色調。

下量多め上量少な目…安定感を得られる

4. 分割・セパレーション

隣り合う色が強過ぎる、弱すぎる色を緩和し、まとめること
低明度と高明度で境界線をハッキリと無彩色、金銀等も使う。
ハーバリウムではあじさい5色くらいで層を分けて入れる

5. グラデーション 同一花材で徐々に明

るく、暗くする。規則性で動きを付ける。まとまり感が出る。

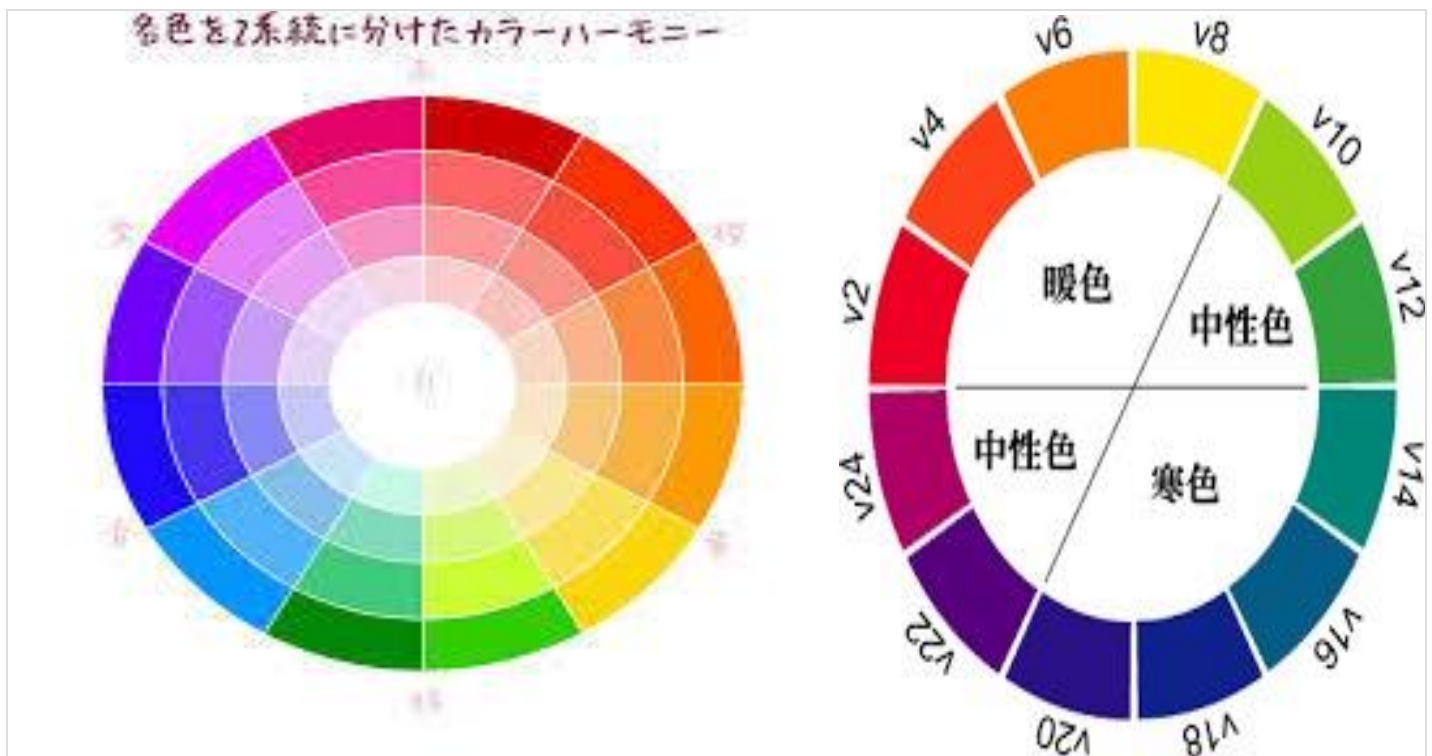
6. コントラスト 対比を作る。視認性が高い。

7. アクセント、ワンポイント 強調する。

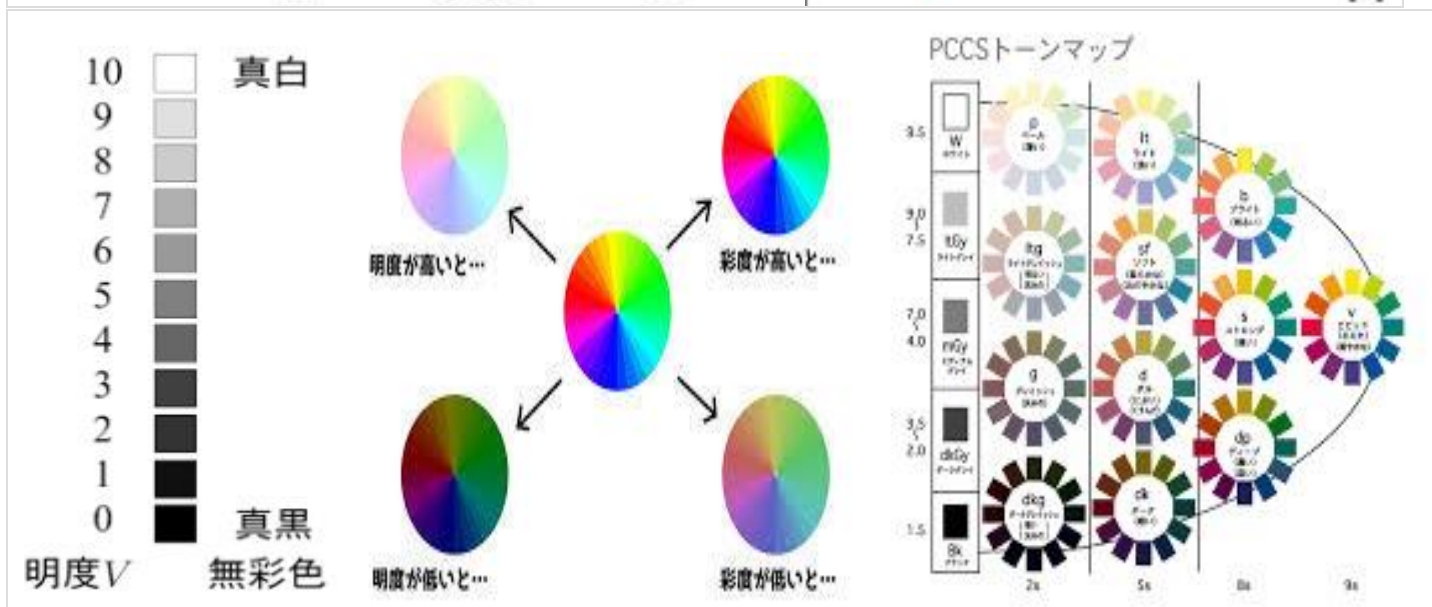
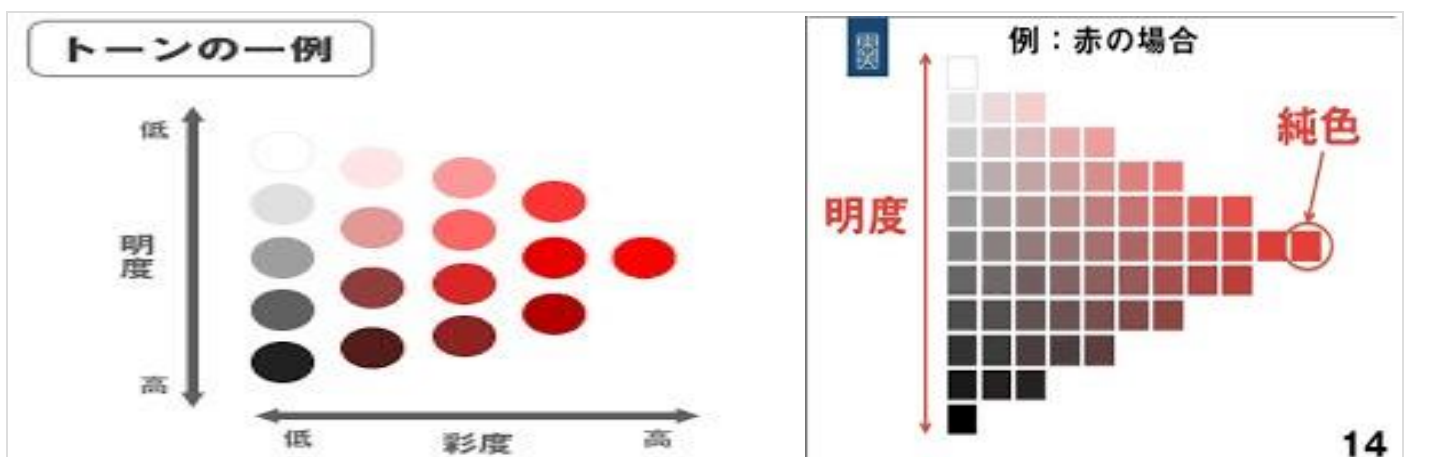
8. 大小 大きさを覚えて変化を付ける

9. アンダートーンの法則 10. 色のドミナント

【色相】



【色調】



同系色相配色・・・統一感があり無難。色を統一して濃淡で変化させた配色。

類系配色・・・少しの変化。近い色同士でまとめた配色

反対配色・・・インパクト大。反対色、補色を加えて変化を付けた配色

類似色

色相のグラデーション

暖色系 中性色系 寒色系 中性色系

同一トーンと同系色の例

同一トーン

同系色

明度のグラデーション

彩度のグラデーション

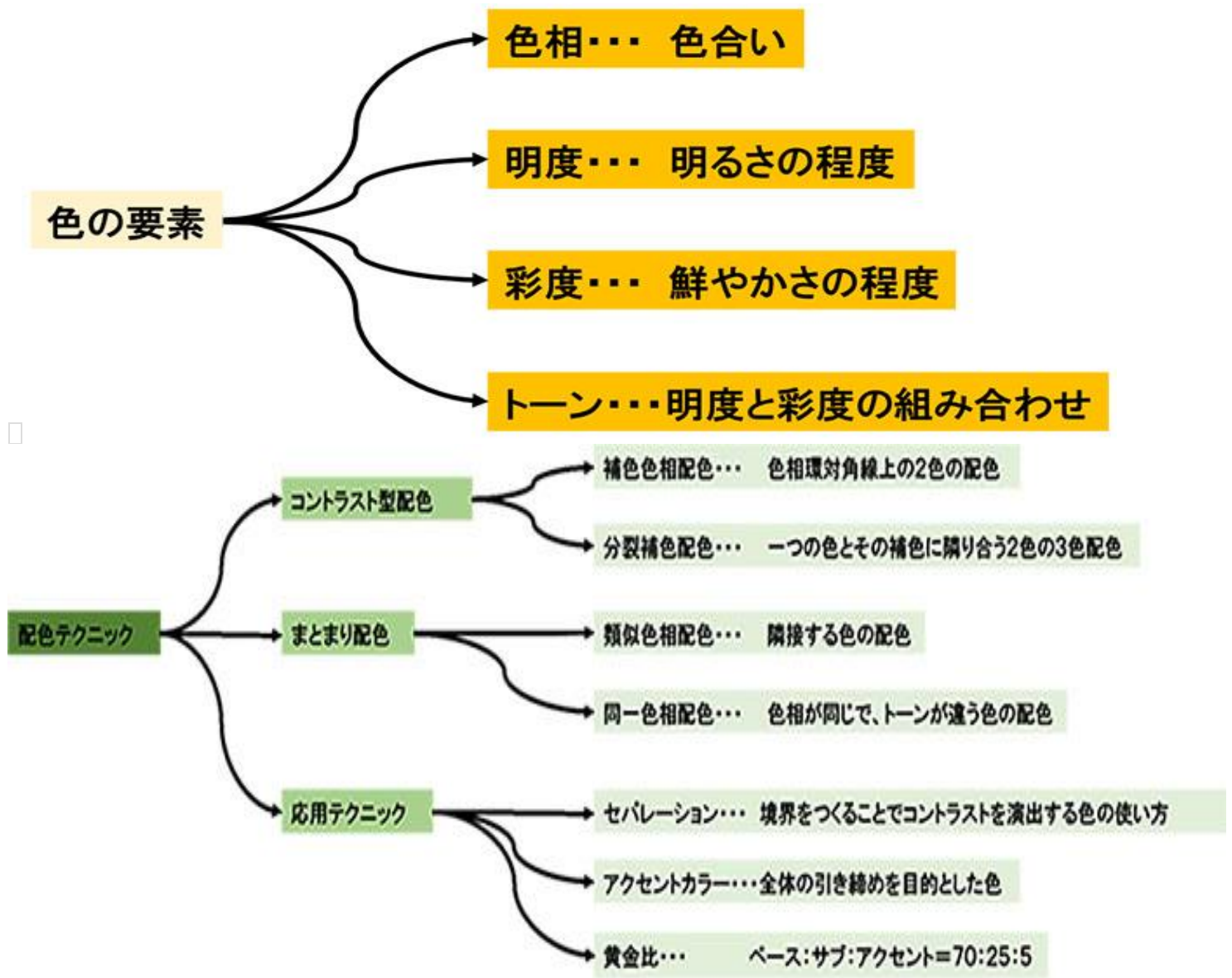
使う色は3色をベースにする

3色を70% : 25% : 5% くらいの比率にする方法があります。

ベースカラー 70% メインカラー 25% アクセントカラー 5%

色相差

同一色相 隣接色相 類似色相 中差色相 対照色相 隣接補色相 補色色相



色の性質を知る

色の性質というものを詳しく見ていくと、三つの属性から成り立っています。一つめの属性は、赤や緑や青といった色味があります。これを「色相」といい、色の変化を順番に並べて環にしたものを「色相環」といいます。二つめの属性は、ある色の明るさを示す「明度」です。これは文字どおり色の明暗で、明るさを増していくほど色は白に近づいて見えることとなります。三つめの属性は「彩度」で、彩度が高ければ高いほどその色本来の見え方となり、彩度が低くなればどの色もグレーになっていきます。

色を組み合わせる際のポイントとは？

配色とはこれら三つの属性を変化させたものを、それぞれ組み合わせる行為です。配色というのは二つの組み合わせであれば、どのようなものを選んでもきれいに見えるものです。しかし、3色以上の組み合わせとなると、とたんに難しくなってしまいます。

それでは色を組み合わせる場合、どのようなところに注意すれば良いでしょうか。まず色にはそれぞれイメージがあります。例えば赤やオレンジなどは、暖かさや活発さを喚起します。反対に青や紫などは、寒さや落ち着きを感じさせます。全体の統一感を出したい場合は、色相環で近い色どうしを選んだり、明度の近いものを選ぶと良いでしょう。反対にメリハリのある目立った配色にしたい場合は、色相の開きがあるもの、明度や彩度の差が大きいものを使うと効果的です。

どのような効果を意図するか明確な目的を持って、配色を考えるようにしましょう。

色相を統一して彩度や明度で差をつける

色というものには色相や彩度、明度という属性がありますが、同じ色相の色でも彩度や明度を変えるだけで印象が変わってきます。例えば、彩度の高い赤は力強さや躍動感を感じさせることが多いものですが、この赤の彩度を下げ気味にして、明度を高くしていくと、かわいらしく柔らかい印象に変化していきます。

一般的に暖色系とされる色味の明度を高くしていくと、優しくソフトなイメージに、赤系統や紫系統の彩度を抑えて明度をやや上げて使うと、落ち着きのある上品さを演出することができます。

誰に届けるかを考えた色選びが大切

どのような相手を想定しているかや使う季節などを考慮して、配色を選ぶとよいでしょう。明度の高い色で統一したやさしいイメージは女性や子供をターゲットにする場合などに有効でしょう。このほか、重厚なイメージやレトロなイメージなどを揃えてみましたので、参考にしてみてください。

同じ色相の色味でも、明度や彩度を変更するとイメージは一変します。寒色系と暖色系という違う色相どうしでも、明度を高くして組み合わせると、やさしいイメージやカジュアルなイメージなど別の印象を与えます。対比の強い色を組み合わせる場合はセパレートカラーを使うと効果的です。

🔍 拡大する

★他教室とちよのとの違い★

1.日本でここだけの作り方でオリジナル作品ができます。

世界で1個のオンリーワンの陶芸・ガラス・ハーバリウム・キャンドル作品を目指します。原料・材料は自家製で多くの物を作ってます。特徴が出ます。

2.名古屋駅から徒歩5分。交通に便利な立地（名駅本店）

旅行中・出張中の方も思いで作りにお寄りいただけます。（陶芸作品は後日郵送）もちろん名古屋市近郊の方も便利です。帰りにお食事やお買い物もできちゃいます。

3.アットホームな教室でいつもお茶してます。

お茶菓子を生徒さんが持ってきてくださったりして、授業の終わりにお茶してます。

4.趣味コン陶芸・ガラス交流会など自社開催 1000回以上！ 男女で共同作業の楽しい物作りの会を提案します。

名古屋駅前ですら1人参加でも楽しく大勢で趣味コンができます。ほぼ毎週末開催しています。「婚活ショップちよの」で検索ください。

5.10名以上のグループで貸し切り教室ができます。名駅 店・津島店で陶芸・ガラス1日体験教室・貸し切り教室！

団体料金で1人あたり2,000円～できます。土日は20名以上で貸し切り。

6.日本全国どこへでも行きます。陶芸・ガラス出張教室！

交通費と出張料金はかかりますが、すべての道具を持ってどこでも行きます。小学校・PTA・子供会・会社等で体験教室ができます。

7.伝統工芸作家・作家の直接指導

しっかりとした指導・作品から、気楽な作品作りまでご指定下さい。簡単体験と本格体験・通常教室があります。

8.セミプロ作家養成します。

本気で作家を目指す方御相談下さい。バイトも募集してます！

★色の要素とは

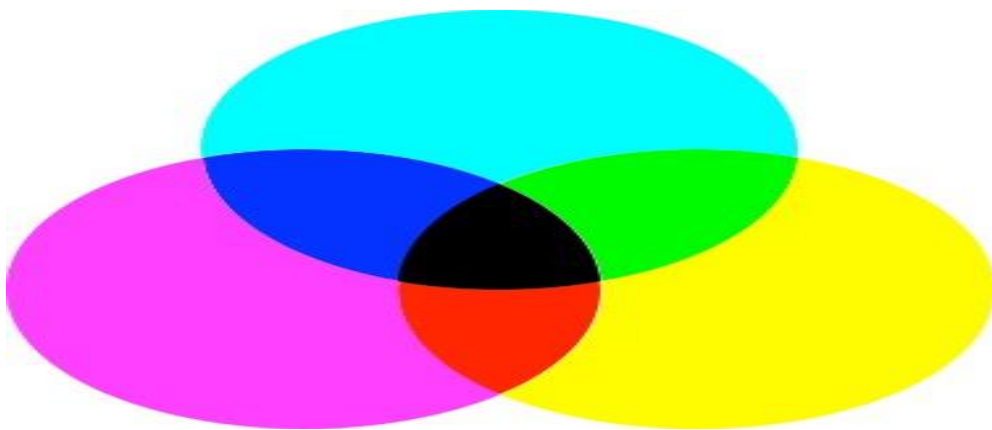
色の要素は**色相・明度・彩度**の3つがあります。それぞれ簡単に説明します。

- **色相**：色合い
- **明度**：明るさの程度
- **彩度**：鮮やかさの程度

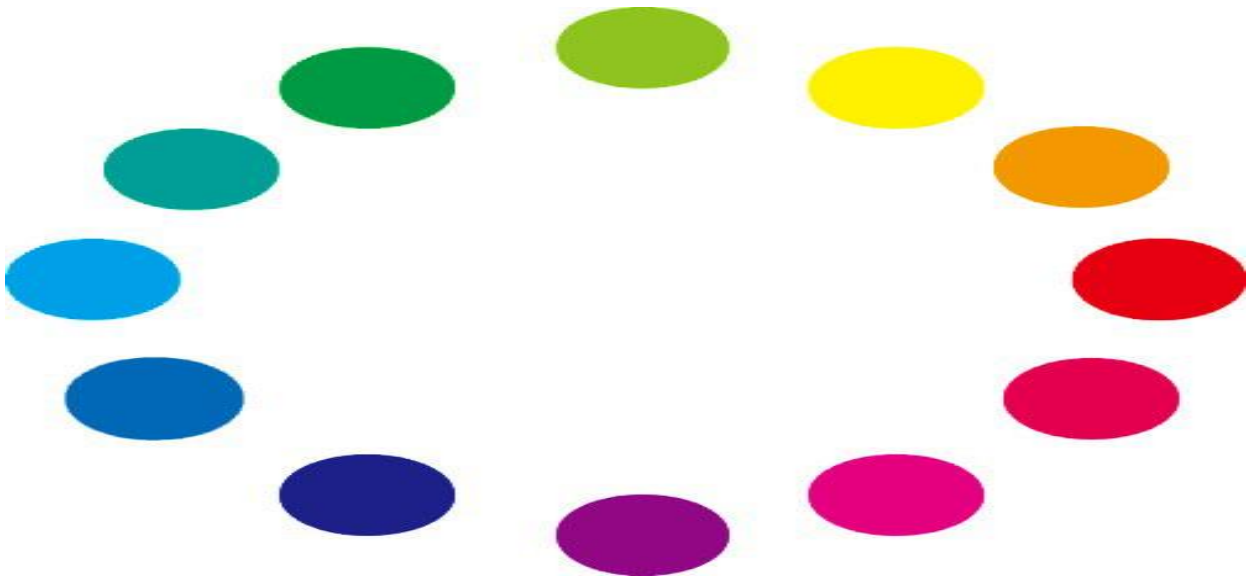
それでは、一つ一つ確認していきましょう。

色相とは赤、青などの**色味（色の種類）**を指す言葉です。

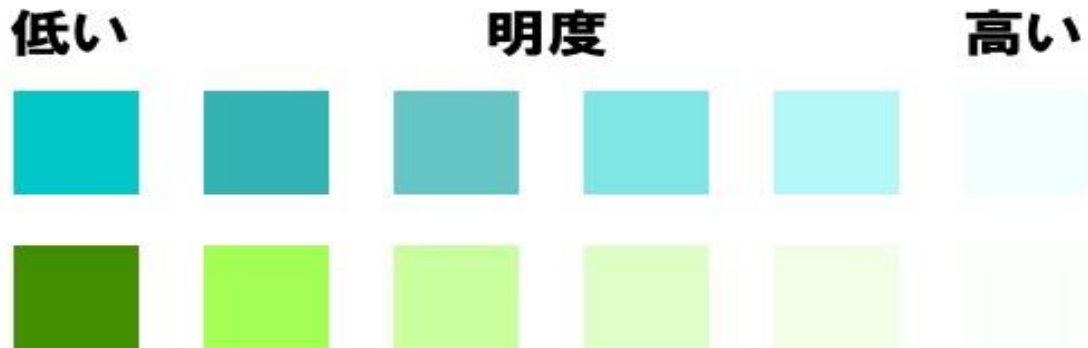
すべての色の基礎となるイエロー(Y)、マゼンタ(M)、シアン(C)を**色の三原色**と言います。



三原色を基本に、段階的に色みを加えて作られたのが、**色相環**です。**色相環**とは、色相を円形に配置したもので、色を体系的に確認することができます。配色の基本を考える上で重要な図ですので、ぜひ覚えておいてください。ちなみに**対角線上に向かい合う色**をその色の**補色**と言います。補色同士を混ぜると、灰色になります。



明度とは**明るさの程度**を表す言葉です。明度が高い方が白色に近い明るい色に、低い方が黒色に近い暗い色になります。例えば薄荷色は明度が高い色、モスグリーンは明度が低い色です。

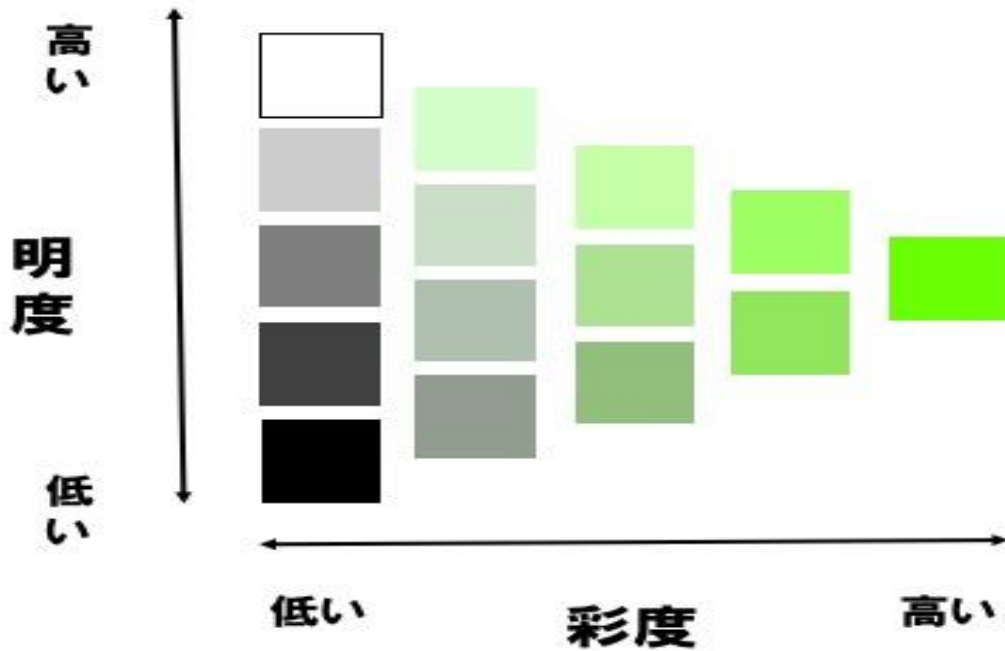


彩度は**鮮やかさの程度**を表す言葉です。彩度が高いと鮮やかではっきりした濃い色になり、最も彩度の高い色を純色と呼びます。彩度が低いと濁ってぼんやりした色になり、最後は無彩色（黒・グレー・白のいずれか）になります。例えばシアンは彩度が高い色、ブルーグレーは彩度が低い色です。



トーンとは

明度・彩度は意味が部分的に絡み合っている為、混乱してしまう人もいるのではないのでしょうか？そんな時に利用する言葉が**トーン（色調）**です。トーンは**明度と彩度を組み合わせた色の雰囲気**を、より**直感的**に表現できる言葉です。



実際には、同一トーンの色を組み合わせて使うことがよくあります。

ビビッドトーン



ライトトーン



グレイッシュトーン



配色テクニック

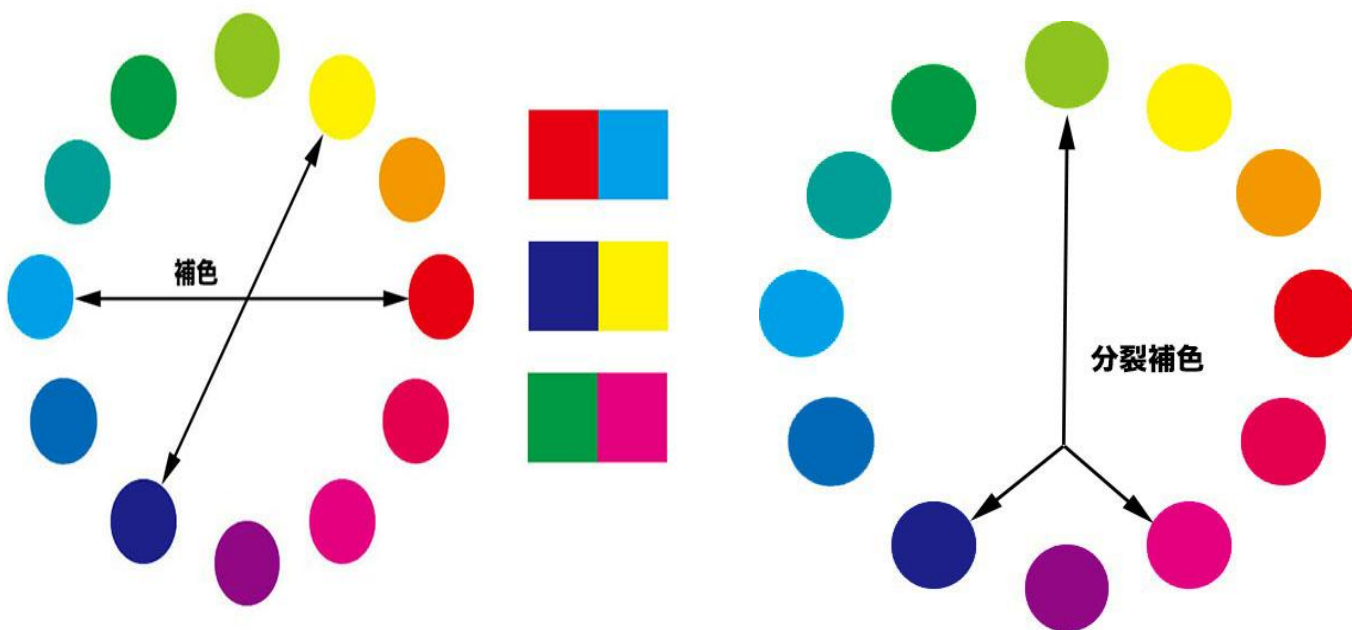
色彩理論の基礎を学習した次は、**配色の**

テクニックについて学んでいきましょう。配色とは複数の色の組み合わせですが、いくつかの有名な方法があります。テーマ別に配色法を説明していきます。

補色色相配色

補色とは、先ほど説明した通り、**色相環の対角線上に向かい合う色同士**のことです。

強い対比を意識させる上で非常に有効な手段です。使うタイミングによってはコントラストが大き過ぎて微妙な印象を与えてしまうので、初心者は注意して使いましょう。



分裂補色配色

補色色相配色に近く、コントラストを際立たせる配色が**分裂補色配色**です。**3つの色を**

組み合わせる配色で、**一つの色とその補色に隣り合う2色**を用います。補色色相配色

と比較すると少しコントラストが弱まるので、初心者の方でも用いやすいという利点

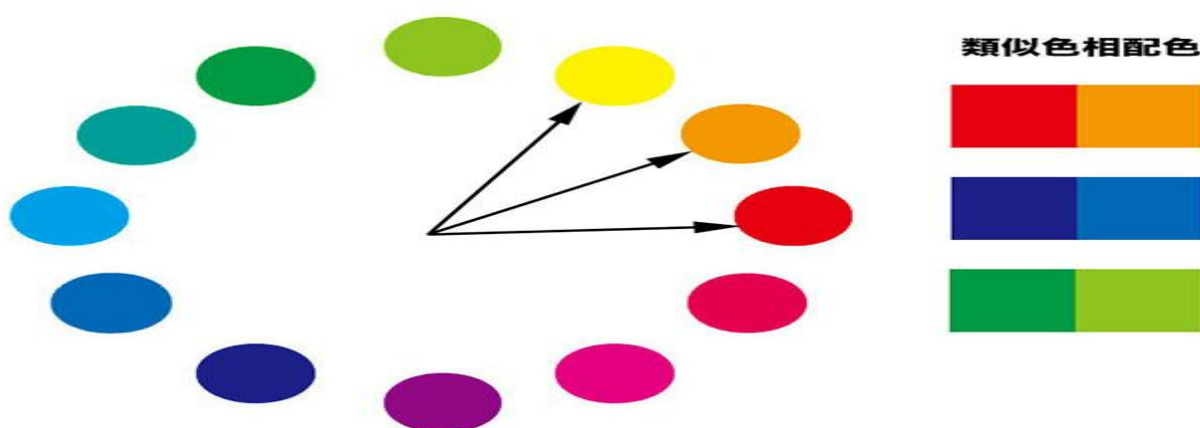
もあります。これも分裂色相配色と同じく初心者でも取り組みやすい配色の一つです。

まとめり配色とは

逆になじみがよい、同系統の組み合わせの配色もあります。それがまとめり配色です。

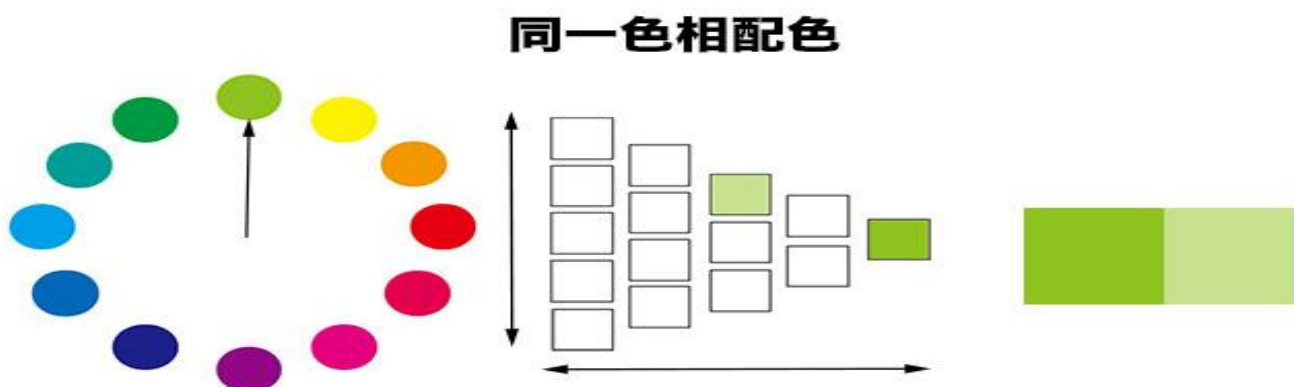
類似色相配色

類似色相配色は同じトーンで、隣接する色相の配色のことです。まとめりがよく、調和した統一感を与えます。



同一色相配色

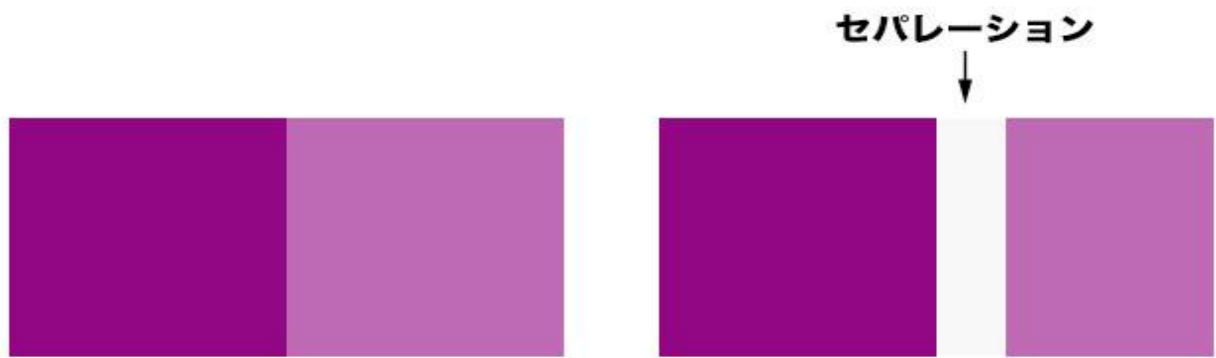
同一色相配色とは、色相の同じ色で、トーンのみを変えた配色。類似色相配色よりもさらに統一感を与え、メッセージ性の強い印象を与えます。しかし、淡白かつ単調な印象を与える場合もあるので、使用时は注意が必要です。



これらのテクニックを踏まえて実際に配色してみても、どうしても全体的によい色味にならない、締まらないと感じる場面に出会うと思います。そんな時に役に立つのが、**セパレーション**と**アクセントカラー**です。

セパレーション

セパレーションとは色と色の間に別の色を使って境界をつくり、それぞれの色をより**はっきり演出する技法**です。コントラストが目立つ配色に用いるとそれぞれの色が明確になり効果的です。具体的には白、黒、灰などのモノトーンカラーを用いるとコントラストがはっきりします。



アクセントカラー

アクセントカラーとは、三色配色時に少面積ながら**全体を引き締める**役割を果たす色のことです。この特徴を生かし、まとまり配色時にアクセントカラーを加えることで、統一感と同時にはっきりとした印象を与えることができます。

通常、まとまり配色時に使用した色の補色を用いると効果的です。



三色で配色する際に、有名な**黄金比「70:25:5」**というものがあります。これは最もバランスの良い三色配色だと言われています。実際に、分裂色相配色やセパレーションを用いた三色配色などにも使えます。

比率の大きいものから**メインカラー**、**サブカラー**、**アクセントカラー**と呼ばれ、3つの色はそれぞれ下の手順で決めていくと良いです。

1. メインカラーを選択。テーマを意識して明度の高過ぎない色を選びます。
2. サブカラーを選びます。これは記事中で紹介した配色を生かして考えましょう。
3. 最後にアクセントカラーを選択します。全体を引き締める時に重要な色です

